

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭56-123909

⑬ Int. Cl.<sup>3</sup>  
A 61 K 7/04  
A 45 D 31/00

識別記号

厅内整理番号  
7432-4C  
7001-3B

⑭ 公開 昭和56年(1981)9月29日  
発明の数 1  
審査請求 有

(全 2 頁)

⑮ 爪補強剤

横浜市神奈川区三ツ沢中町19-25

⑯ 特 願 昭55-27364  
⑰ 出 願 昭55(1980)3月6日  
⑱ 発明者 磯田富美穂

⑯ 出願人 株式会社伊勢半  
東京都千代田区五番町7番地

明細書

1. 発明の名称  
爪補強剤

2. 特許請求の範囲

黒色または白色または有色のラッカーベースに対して、レーヨン、ナイロン、ポリエステル、木粉、牛毛、麻、綿の太さ0.5～15 マニール、長さ0.5～3.0 mm の黒色または有色の繊維を均一に分散させたもので、爪に塗布することにより、歯らしい爪の強度、爪の割れや碎片のはがれの修復および逆行防止等に有効で、さらにそのままでネイルエナメルとしてあるいはペースコートとしても使用できる爪補強剤

3. 発明の詳細な説明

本発明は爪の補強剤に関するものである。従来欠けたり、割れたり、また碎片状にはがれたりする爪を修復併強し、日常生活に対する不快を解消したり、ネイルエナメルをぬりやすくしたりする為に、いくつかの爪補強用製品があつた。

この多くは空気剤で、従来大別して二種類の原理での効果を得ていた。

そのひとつは何らかの粉末を小にしみ込ませて化学的に爪を強化するものであり、いまひとつはラッカーベースで、その向島の効果によつて爪の割れた部分を接着したり、爪のみかけの強度を増したりするものである。しかしこれらにはいずれも欠点がある。前者はあまり効果が無いか、または効果があつても製品による爪あるいは皮膚などの身体への害が心配されることが欠点

となり、また後者では实际上充分な強度はなかなか得られない。

そしてこれらの問題はいずれもその本質にもとづくものであり、それを解決することは困難である。

そこで本発明者は上記の欠点を持たない爪補強用塗布剤として通常のネイルエナメルあるいはベースコートに類似したラッカーベースに短かい繊維を混入分散させたものを発明した。この補強剤は通常のネイルエナメルと同様に塗布、乾燥させることにより、短かい繊維を分散させたまま硬化し、繊維と樹脂との複合効果により、きわめて丈夫な塗膜となつて効果をあらわす。

处方例 (1)

レーヨン繊維 (3 マニール、長さ 2 mm)	1.5 重量%
ニトロセルロース	14.0 重量%
アクリル樹脂	6.0 重量%
アルキッド樹脂	6.0 重量%
カンフル	5.0 重量%
酢酸ブチル	25.0 重量%
酢酸エチル	10.0 重量%
トルエン	32.3 重量%
硬化チタン	0.2 重量%
合計	100.0 重量%

この例はほぼ通常の白色ネイルエナメルにレーヨンの短かい繊維を加えたものに相当し、ベースコート用あるいは単に補強用として使用できる。これを塗布すると、繊維と樹脂との複合効果によつて歯らしい爪を見か

け上ほくし、また爪が割れている場合はその割れ部分に接着される繊維によつてその割れが復元され、また割れがさらに進行する事を防止する。

これは従来の接着の入つていないラッカーアイプのものが割れの修復や進行防止にはほとんど効果がなかつたのと比較して容易な進歩である。また、これは次のような方法によつて使用すると先端から片状にはがれかかつた爪の固定にも有効である。

a. まず通常のネイルエナメルと同様に爪上にハケで塗布し、次に爪の先端のはがれかかつた部分に塗布する。

b. 上記のものが半ば乾いた時に再度通常のネイルエナメルと同様にハケで塗布する。この時ハケの操作により爪の先端部分からは結合を少しほみ出させ、全体が半乾きになるまで待つて、この操作を指で内側におりまげ、缺片状になつた部分にからめて固定する。

c. 最後に爪先部分を含む爪全体に塗布して仕上げる。これはこのままで良いし、この上に通常のネイルエナメル等を塗布して仕上げても良い。

#### 处方例 (2)

ナイロン繊維(0.5 テニール、長さ1 mm、赤色)	1.0 重量%
ニトロセルロース	15.0 重量%
アルキッド樹脂	13.0 重量%
カンフル	3.0 重量%
フタル酸ジブチル	3.0 重量%
ブチルアルコール	2.0 重量%

0.5 ~ 3 mm が、塗布のしやすさ、補強効果の面からみて適当である。

酢酸ブチル	20.0 重量%
酢酸エチル	8.0 重量%
トルエン	31.4 重量%
ペントナイト	1.0 重量%
セビチタン	2.0 重量%
赤色202号	0.4 重量%
赤色204号	0.2 重量%
合計	100.0 重量%

これは従来の顔料入りのネイルエナメルにナイロンの繊維を分散させた型式のものである。これは従来のネイルエナメルとまったく同様に使用することが出来、細くて赤色の繊維を用いているために乾燥後も繊維があまり目立たないので、通常のネイルエナメルによる上塗りは物に必要としない。またこれも处方例 (1)において示したのと同様な特長をもつ、すなはち、軟らかい爪を補強し、割れや、缺片状のはがれの修復および進行防止をする。

これらの例の他にも繊維としてはポリエステル等の合成繊維だけでなく木粉、羊毛、麻、綿等の天然繊維も使用可能である。この繊維の全体に対する配合は通常1%前後が適当であるが、最適の割合は繊維の性質、大きさ、長さ等によつて異なり、普通およそ0.1%から3%のあいだにある。一般的傾向として、繊維の配合量が少ないとその補強剤としての効果が少く、また多すぎるとみかけの粘度が上昇して塗布しにくくなってしまう、また繊維の大きさは0.5 ~ 15 テニール、長さは

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 56123909 A

(43) Date of publication of application: 29.09.81

(51) Int. Cl

A61K 7/04

A45D 31/00

(21) Application number: 55027364

(71) Applicant: ISEHAN:KK

(22) Date of filing: 06.03.80

(72) Inventor: ISODA TOMIO

(54) NAIL REINFORCING AGENT

(57) Abstract:

PURPOSE: To prepare a nail reinforcing agent giving tough coating film to reinforce the soft nail, and useful for the mending and prevention of cracks of flaky peeling of the nail, by mixing and dispersing short fibers of rayon, nylon, cotton, wool, etc. in a lacquer base.

CONSTITUTION: The nail reinforcing agent is obtained by dispersing fibers of rayon, nylon, polyester, cotton, wool, flax, silk, etc. of 0.5W15 denier in thickness and 0.5W3.0mm in length, homogeneously, in a colorless, white, or colored lacquer base. The nail reinforcing

agent can be applied and dried in the same manner as conventional nail enamel, and cured to obtain a tough film dispersed with the short fibers. The combined effect of the fiber and the resin gives the coating film with extremely high toughness, and enables the reinforcement of the soft nail and the mending and prevention of the cracks and flaky peeling of the nail. Especially, the agent is effective to the crack of the nail by the bridging effect of the fibers at the crack. The amount of the fibers is 0.1W3% based on the whole composition.

COPYRIGHT: (C)1981,JPO&Japio